

筆山

第30号 / 2001年7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

〒106-0032 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201

E-mail : tsuruwa@mxq.mesh.ne.jp 関東支部ホームページ : <http://www2u.biglobe.ne.jp/~tsuruwa/kantosibu.htm>



衆議院予算委員会で答弁する中谷元氏 (51回生)

中谷元君の大臣就任を祝う

30回生 鍋島高明

中谷元君が小泉断行内閣の防衛庁長官に就任した。同窓生として心からお祝い申し上げる。派閥順送り人事ではなく、適材適所、若手抜擢の目玉人事として、最年少で入閣したことにわれわれの喜びはひとしおである。

認証式後の恒例の記念写真でも、中谷君は飛び抜けてどっしり構えており、日本国民の安全を託するに足る頼もしさをも出し出している。自衛隊での闘兵式ではきたりにのつとり、山高帽を胸に当て、堂々と闊歩する若き英姿がテレビに映し出された。思わず鳥肌立つのを覚えたのは私一人ではあるまい。

思い起こせば十数年前、赤坂「ねぼけ」で中谷君の政界進出前夜祭が催された時、魑魅魍魎(ちみもりょう)の巢食う世界に送り出すのはしのびないという感じがした。それほどに初々しかった。先ごろの「加藤の乱」では切り込み隊長をとめながら、深い挫折を味わった。思わず「殉死」という言葉がよぎったものだ。

しかし、加藤紘一會長に殉じようとする中谷君の一挙一動を小泉さんはきちんと見抜いていたのだ。中谷元という男は防衛の専門家である前に人間として共に闘える男だ。小泉首相にはそう映ったに違いない。

中谷君は介良の出身である。故郷を共にするものとして喜びは格別である。中谷君の祖父貞頼氏が遊説していた姿が脳裏に残っている。記録をひもとくと、昭和21年、戦後初の総選挙は24名が立候補する大乱戦で、貞頼氏は敗北、政界を去った。泉下の貞頼氏も孫の快拳に目を細めていることだろう。

小泉さんは施政方針演説で山本有三の「米百俵」を用いていた。中谷君には山本有三が愛唱したドイツ詩を贈ろう。「心に太陽を持って、天には雲、地には争いが絶えなかるうが！ 心に太陽を持って、そうすりゃ何が来ようと平気じゃないか！」

平成13年度土佐中学・高等学校同窓会関東支部総会及び大懇親会は6月2日(土)オリピック記念青少年総合センター「国際交流館」に於いて開催されました。約三名余の同窓生が代々木の森に参集し盛大に挙行されました。



母校からは浜田教頭先生、正木宏明先生、矢野先生にお見え頂きました。また、OBの先生方として、中澤先生、正木哲夫先生、三枝先生、平岡先生にお見え頂きました。

今年の記念講演はNHK芸能番組部エグゼクティブディレクターの島田源領氏(41回)の「紅白・クイズ・バラエティー



記念講演 島田源領さん

「テレビエンターテインメントは今」と題する底抜けに楽しい講演でした。

今年のは1の回生(21、31、41、51、61、71)の同窓諸氏による総会・懇親会の運営がなされました。

懇親会ではアトラクションとして「テーブル対抗歌合戦」が行われ、白熱の歌合戦を制し優勝したのは佐々木泰子さん(33回)、「川の流れのように」でした。

来年の総会は平成14年6月1日(土)に今年と同じオリピック記念青少年総合センターで開催いたします。奮ってご参加ください。

大懇親会

懇親会の司会は71回生



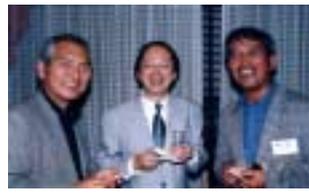
宮地支部長による来賓紹介



乾杯の音頭は中澤先生



壇上で今年卒業の新会員である76回生が紹介された



白熱するテーブル対抗歌合戦



順番を待つ各テーブルの代表選手



真剣なまなざしの審査員



1の回生から2の回生への幹事引継ぎ。来年は宜しく！



関東支部活動報告

事務局長 鶴和千秋(41回生)

関東支部の皆さん、平素は同窓会活動、支部活動にご協力頂きましてありがとうございます。事務局より今年前半の支部活動のご報告を致します。

2月24日学年幹事会が行われました。今年も50人近い幹事の方が出席され、席上8月の同窓会総会で改選される本部役員に、関東支部から副会長候補として、溝淵真清前関東支部幹事長(32回)を推薦することになりました。

溝淵さんには、関東支部の重責から開放されてより僅か一年余、母校、同窓会の更なる発展のため、再び表舞台に登場していただくことになりました。

6月2日には、恒例の関東支部総会が大盛況裡に開催されましたこと別項のとおりです。

ところで今年、関東支部名簿の改訂の年に当たっており、大石和男さん(40回)はじめ名簿担当の幹事さんが懸命の準備作業を進めておられます。支部の皆様には、今後データ更新等でご協力をお願いすることになりますので、宜しくお願い致します。

総会幹事を終えて

上野典子(51回生)

「乾杯、お疲れ様でした」。
6月14日の打上げで準備幹事としての集まりはすべて終わった。「例年にも増して盛り上がりがあった総会で・・・」との市川幹事長の声に満足そうにうなずく、「1の回生」のメンバーたち・・・。



準備会の真剣な討議が続く

まずは重鎮の21回と31回そして要となった個性豊かな41回の方々だ。打合せ会で「早っビールが飲みたい」と口火を切るのは、トドメーカーの岩村さん。記念講演の講師だけでなくプロテューサーも引き受けて下さった島田さん、PCを駆使する冷静沈着な筒井さん、アルコールなしで八面六臂の活躍の鶴和さん、頼もしい編集長の西岡さん、41回生を50人も集めた明るい人柄の三宅さん、誉め上手の横

原さん

そして最大の呼び物「のど自慢」を成功させた61回は、まとめ役で配りの高橋君、マイクを持つとプロの司会に早変わりの岡田君と土居君、ぶっつけ本番で鐘を叩いた公文さん、プロジェクター操作で55回のご主人と熱々ぶりを披露した筒井さん。2年連続ビデオカメラを担当してくれた70回の長縄さん。



71回に至っては、15分の打合せで堂々と司会の坂田君と弘瀬君、にこやかな受付の田村・棚橋さんコンビ、そして全ての打合会に参加し照明から受付までこなしてくれた三宮君、と若さのパワーは計り知れない。

51回は、20年ぶりの急な呼び出しにも駆けつけてくれた岩田君と、大役を終え「来年の総会では今年の分も食べさせて飲むぞ」と誓つた私。祭りを終えたこれからも、この仲間らしい宴はあちこちで続いていくことだろう。

母校だより

学校長 森田幸雄

巖陰に鮎竿たたむ山雨かな
傘帆

この程県内全河川で鮎漁が解禁となり、土佐路は一気に夏の気配が漂い始めました。

さて関東支部の皆様には、宮地支部長さんを先頭にますますご健勝の御事と存じ心からお喜び申し上げます。

本校も新学期開始から2ヶ月余り、中1、高1の新入学生諸君も順調に学校生活に馴染んでくれており、また全校を通じ県体等大規模行事も恙なく消化中でありますので何卒ご休心の程お願い申し上げます。

小泉政権発足以来1ヶ月、高い支持率に見られる如く、今度こそ政治改革の遂行をという国民的期待が膨らんでいます。そしてその目玉閣僚として中谷元氏が入閣を果されました。本県出身の、また土佐高出身者として谷川先輩に次ぐ10年目の快挙であります。皆様と共に心から祝福申し上げます。共に存分のご活躍をお祈り致します。

それと裏腹に県内はいわゆる巨額やみ融資事件で元副知事が逮捕される等、県政史上かつてない混乱事態が続いており、先の土佐山村前収入役による詐欺行為と合わせて本県の評価を著しく陥しめてしまいました。全国に先駆けて官々接待の廃止や情報公開、教育改革に取組んできたと呼ぶる県政の実態がこれではと県民として情ない気持ちで一杯です。何とかこのあたりで窮状を打破し、心機一転明朗で活気に充ちた県勢の回復を希わずにはられません。



さて本校80周年記念諸行事の遂行に際し会員各位には、物心両面に亘り積極的なご支援ご協力を賜り誠に有難うござ

ございました。また11月17日の記念式典や祝賀会、更には記念向陽祭等には多数ご参加を頂き、お陰様で総ての行事を滞りなく、且つ成功裡に終了する事が出来ました。誠に感謝の極みであります。改めて厚く御礼を申し上げます。

ところで私は80周年に關し在校生として最高の祝意を表する方途は、日頃の学習成績の向上と特に大学進学実績の飛躍であると生徒諸君の奮起を促して参りました。その期待に心え今年の卒業生諸君は現役合格率にしても、超難関校合格の面でも良い結果を残してくれました。一例を挙げれば東京大6名中現役生5、京都7名中現5、大阪9名中現7、神戸7名中現5、一橋現3、横浜国大現5、岡山19中現16等であります。また慶應、早稲田、同志社等私学難関校でも昨年の実績を大幅に凌駕しております。学校としてはこの勢いを更に発展させるべく、「一歩一歩高きに登る」

を合言葉に指導体制強化に取り組んでまいる所存ですので良きご助言とお力添えを賜れば幸いです。最後に記念事業の棹尾を飾る記念誌が予定より若干遅れ

ましたがこの程完成、お届け出来る運びとなりました。質量共にご期待にお応えし得る労作であると思っております。ご熟読頂きます様お願い申し上げます。

寒暖不定の天候が続きます。関東支部会員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。事報告とさせていただきます。

本部だより

幹事長 岡内紀雄(34回生)

関東支部のみなさん、ご機嫌いかがですか。南国土佐では、間もなく梅雨入りですが、早くも一足飛びに夏日が続いています。

「アサヒビール解禁」

一昨年10月に高知県が、「深層水ビールを造りませんか」とアサヒビールに企画を持ちかけ、室戸の海洋深層水とデータを提供していたにもかかわらず、事前に何の断りも説明もなしに、昨年12月に突然アサヒが「富山県の深層水で発砲酒を発売」と発表したことに納得ができない高知県が、橋本知事名で同社に抗議文を送った問題で、2月5日に同社の福地社長が来高、

橋本知事に新製品の発表まで高知県への連絡がなかったことについては、「至らぬ点があった」と謝罪。2月22日、発砲酒「アサヒ本生」が発売されました。「いごっそう」を自負する高知県人としては、「なめたらいかんぜよ」と、「アサヒビールは飲まない症候群」が広まり、ホテルを始めあらゆる宴会場や酒場で、他の銘柄を指名する人々が急速に増加して、しばらくは治まりそうにない状態が続いていました。その後アサヒの社長が再び来高して改めて陳謝、今後高知県と共同で深層水の利用について研究していくことで合意、本件はようやく水解してアサヒビールは解禁につながりました。めでたし、めでたし。

「よさこい高知国体の憂」

昭和21年に始まった「国民体育大会」の第57回大会は、来年、高知県で開催されます。夏季大会(9月21日、24日)及び秋季大会(10月26日、31日)として県内53全市町村の会場で様々な競技が繰りひろげられます。しかし、とくに輸送と宿泊の面で大きな問題があり、その解決に向けて関係者の苦悩の日々が続いている。

ます。秋季大会の開会式は、春野総合運動公園で行われますが、参加人員は2万7千、2万8千人が予想され、その輸送には大型バス七〇〇台が必要なのに、県内の保有台数は二〇〇台に過ぎず、不足分は県外からチャーターしなければなりません。また、夏季大会は参加者が比較的少ないので、何とか対応できそうですが、秋季大会では、ピーク時には約3万人の宿舎が必要で、とくに高知市を中心に、いろいろと工夫、努力をしても、今のところ約3千人の宿舎が不足している状況です。1千人は、客船2隻をチャーターする予定ですが、2千人分が未解決です。多くの県民がホームステイに協力することも必要であると思います。

今年度の同窓会総会は、8月4日(土)高知新阪急ホテルで開催いたします。関東支部のみなさん多数のご参加をお待ちしています。

東海支部だより

東海支部を東西支部交流の起点に
支部長 太高坂素雄(31回生)

一昨年から母校同窓会の4支部の総会に参加させてもらった。関東、関西支部は、人数も多く、各年次に世話役を配すなど活発に活動されている。特に若い人の参加が多く感心した。広島、香川支部は、会員相互のつながりが密で、日頃の地元に着した活動が印象に残った。

さて、東海支部はどうだろうか? 関東、関西支部ほどの規模はなく、広島、香川支部のような地元との密着性もない。丁度この地域の特性(?)である、ふんわりした感じの集りである。この地域には、名古屋という町はあるが、東京、大阪程の力はない。愛知県でも、世界に通用する町は、今、車の町トヨタであり、歴史的に云えば、五万石でも岡崎である。要するに、この地域には、「へそ」がないのである。だから何をやって、まとまりがない。古い話だが20年前、東京オリンピック、大阪万博に続いて、名古屋オリンピックを計画したが見事失敗した。

今、二〇〇五年愛知万博(名古屋万博ではない)の準備を進めているが、順調ではない。関係者の熱心に比べ

一般は冷ややかである。こんな土地柄だから(?) 当支部も、熱気溢れる会とはいかないが、反面堅苦しさのない至って気安い集りだと思ふ。関東、関西からの転勤者にとっては、少しもの足りないかも知れないが、これはこれで結構面白い深いところもある。転入者はもちろん、転出された方々も時には、東海支部の会合にも参加してほしい。

名古屋地検特捜部を作られた秋田清夫氏(27回)、丸紅常務名古屋支社長として大きな仕事をされた森本直行氏(32回)なく、ごく最近でもこの地で活躍された方は多い。



そんな方々の参加があれば、この支部も大いに活性化される。

また「のぞみ」のおかげで東京、大阪と名古屋は一段と近くなった。東西支部の中央にある東海支部を起点として相互の交流をより一層深めたいと思う。そして二〇〇五年の万博には、全国から大勢の同窓生を迎えて、この地で合同の催しでもできればと夢みている。

関西支部だより

幹事 山崎登代子(42回生)

関西支部の皆様こんにちは。関西支部の総会は21世紀幕開けの1月13日(土)リッツカールトンホテルにて開かれまして。母校、本部、各支部からの来賓を含め過去最高の一三名ほどの参加者を得て、会



場は華やかな熱気に包まれました。総会では新役員として副支部長川崎美栄子(42回)、副幹事長北野忍(53回)、横川大(61回)の各氏が盛大な拍手をもって承認されました。その後は寛もたけなわで豪華な会場とシエフ自慢の料理の数々、そのうえ持ち込み料を払ってまで持ち込んだ高知の竹輪や蒲鉾のおいしかったことは言ってもありません。

交渉に当たった山下幹事のひたむきな姿勢には頭が下がる思いでした。今回は好評を博した企画がいくつかありました。一つは永野支部長が提供した巨人軍松井選手のサイン色紙をゲットするジャンケン大会です。これは初参加の大学生に渡り、若々しいガッツポーズが大いに会場を盛り上げました。もう一つは高知の安岡信江(34回)さんの御指導のもと全員でハメをはずしたよさこい鳴子踊りでした。札幌のよさこいソーランをはじめとして全国によさこいと名の付いた祭りが飛び火している昨今ですが、元祖の地位を奪われないように自覚せねばなりません。また土佐中、高創立80周年を記念しての写

真やビデオ祝辞が紹介され心強いかぎりでした。

ところでこの春大阪ではスポーツの国際大会が相次いで開かれました。卓球の世界選手権と東アジア競技大会がそれです。オリンピックの前哨戦として精一杯がんばってみたいのですが・・・果たしてオリンピックは来るのでしょうか。

広島支部だより

幹事 小島康(37回生)

光る海、新緑、鯉のたたき・・・風薫る5月。故郷高知を懐かしく恋しく思う季節です。関東支部の皆様こんにちは。「筆山」29号以降の支部活動の御報告です。

広島支部は、他支部との総会開催時期の重複を配慮する為の措置として、去年は総会を1月22日、11月25日と2度開催致しました。因って今年からは秋に開催ということになります。会場は何れも県民文化センターでした。閉会后、役員は2次会の会場の予約を取り付けて2次会の会場に向かう手際によさで、一年の総会ももちろん10月27

日(土)県民センターと決定しております。(平和公園、市民球場、ひろしま美術館、デパート等主たる施設建物を一堂に有する場所柄、総会当日又はその前日、翌日、ゆっくり観光をしていたきたいと思えます)。

我支部は総会同様にその後の2次会にも役員が気配りをしていきます。40名以内の少人数といつこともあつてほとんど全員が2次会に参加されます。皆さん各分野のスペシャリストでいらつしやるので和気藹々の中にも、アカデミックな会話が飛び交い本会議同様に熱が入ります。若者向けのコースももちろん構えてあります。

4月の梅太郎での「青春の集い」の場で、今秋の講演を何方にしていたかということになり、飲みながらおしゃべりしながらの間に間に、阿吽の呼吸でパパパパと連絡し合つて26回生の山本浩史氏と決定しました。(湯川秀樹博士の愛弟子で)京都大学で理論物理学を学ばれた方で若かりし日のドイツ留学中の研究室のこと、ヨーロッパでの登山のことをおはなししていただく予定です。

広島支部は去年40回生、41回生が主たる役員となつてからは、役員会はまだでクラス会の如き和やかさで事務処理はスビッドアップ。課題がひとつひとつ改善されてゆきます。それもそのはず、支部長と事務局長が40回生Tホームの同級で、その上現在職場が同じなのです。

まずは、広島支部の名簿作成に着手。次に広島支部会報誌「青春」の発行。貴支部で御活躍の西岡恒憲氏が広島支部から関東支部に移籍されて以来休刊してありましたが、第10号発刊となりましたことは画期的な出来事です。

又、会費を徴収することが去年の総会で決議され4月に青春10号と共に振込用紙を各会員のもとに送付致しました。長年、財政の遣り繰りで頭を抱え込んでいた会計幹事より、「だんだん入金がありだしました」と歓喜のファックスが入つたと事務局長よりほんの最近電話がありました。このよつに広島支部は楽しみながら地道な活動を続けておりますので御指導の程よろしくお願い申し上げます。今日5月26日、沖、山崎が東海支部総会に出席させてい

ただいております。1週間後
関東支部総会で皆様にお会い
することを楽しみにペンを置
きます。

香川支部だより

幹事 谷隆(38 回生)

関東支部の皆様こんにちは。
早いものでお別れして間もな
く1年になります。毎月第
1木曜日には「土佐酒蔵」の
奥の一木会の指定席を懐かし
く思い出し、相変わらず38回
が一番出席率が高いがやない
らうかと想いながら、美味い
瀬戸内の魚で一杯飲っています。

香川支部では目下、7月7
日の支部総会に向けて最終の
準備に入っておりますが、参
加者が初めて50名を超えた。
昨年以上に盛大な総会にすべ
く頑張っております。関東支
部からは鶴和事務局長が駆け
つけてくれる予定で、小生も
再会を楽しんでいます。

いささか旧聞に属しますが
本年2月14日に支部役員会を
開催し、役員補充や会則の
改定、本年度の総会等につい
てそれぞれ決定し、会議終了
後懇親会に移りましたが総会

に負けない位の盛り上りを見
せました。

高松市は港頭地区の再開発
事業で、あの懐かしい旧国鉄
時代の連絡船乗り場、高松駅
(ホント乗り換え時には、み
んなよく走りました)周辺が
愛称「サンポート高松」とし
て生まれ変わり、昔の面影は
どこにも残っていませんが、
現在一番の人気スポットになっ
ています。

ところでこれは何のメニュー
か判りませんか。

「お品書き」

あつあつ 大 三五 円

ひやあつ 小 二五 円

ひやあつ 大 三五 円

ひやひや 小 二五 円

ひやひや 大 三五 円

しょうゆ 小 二五 円

しょうゆ 大 三五 円

小生が週に1回以上通ってい
る、さぬきうどんの人気店の
メニューです。美味しい、早い
安い、正に名物に美味しいもの
有ります。因みに私の定番は
ひやあつの大+しょうゆの小

これでうどん3玉ですが不
思議とする入ります。高松
に来られる時は「一報下さい
」ご案内します。一度食べたら
嵌まりますよ。

第9回はちぎん会(土佐高
OG会)は、5月19日(土)
午後1時より「トラットリア
ラ・ベルデ」青山店で開催さ
れました。



今回は、25回生山本高敬氏
"写真左をナイトに、女性30
名(うち学生3名)、歴代ナ
イトも4名参加されて、計35
名の男女が、知的に、かつ華
やかに懇親を深めました。



山下涼子(70回生)

私は、今回が2度目のはち
ぎん会参加だったので、前
回よりもさらに「はちぎん
パワー」を感じたパーティで
した。N先輩御用達のお店を
貸し切って、というだけで
雰囲気の中とはいえ、今回の
ナイト、過去のナイト

はちぎん会

の方々と
う世間一般
では名士と
される方々
に、白や黄
色、ピンク
の蝶の羽根
と触覚をつ
け、「かわ
い」と言っ
てしまうの



は、やはり「はちぎん」なら
ではだ、と思ってしまうま
でした。個人的に少し落ち込ん
でいた時だったのですが、た
くさんの元気をいただきました。
ありがとうございます。
私も早く、人を元気づけられ
るぐらい自信をつけ
なければ、と思いま
した。



この会はいつでもご入会大歓迎です。

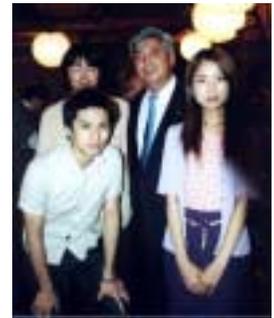
佐々木(33) TEL&FAX 044-955-0562
E-mail hiro-art@nifty.com
金澤(55) TEL&FAX 03-3586-3680
E-mail kanazawa@rg.bias.ne.jp
西森(57) TEL 03-3408-1454

中谷元氏の防衛庁長官就任を祝う

それはいかにも土佐らしいオープニングだった。6月7日の一木会、中谷元長官(51回)が予定より早い7時5分



に到着すると歓声と拍手の渦のなか、いきなりあちこちで



74回生、76回生と

既に酒がはいっている。もみくちゃになりながら上座にいた中谷氏は「何で私(長官に)と足が震えました。私も変人の一人と思われたんでしよう。田中外相も私も世間知らずです。しっかりと勉強して頑張らないかんと思っています」と挨拶。

一木会

記念撮影が始まった。「中谷先生、こっちこっち」「先生はやめてくださいよ」。大学1年の76回佐々木彩乃さ

んから最長老の16回曾和、吉澤先輩まで銀座の居酒屋「土佐酒蔵」で待ち受ける約50人、



土佐弁の祝辞が飛び交うなか、一人一人に心のこもった挨拶をしてまわる中谷氏に「この実直さがええ」の声。この夜ばかりは「元ちゃん」に戻った中谷氏、「母校のつながりは本当に有り難いです」。出席者全員、心から祝福し、美酒に酔った。(土佐酒蔵にて岩村康生・写真は岡岡恒憲 41回)

速報

関東支部ホームページに土佐高校陸上部から速報が届きました。

4x4 mと4xmで四国大会を勝ち抜いてインターハイに出場するそうです。

四国高校陸上選手権大会(6月16〜18日、春野陸上競技場)

千六百メートルリレー

1位、土佐(田口、森本雅和、東崎) 3分15秒31

新、県高校新

リレーの土佐は県体でマークした県記録、県高校記録を更新。大会記録も塗り替える

3分15秒31をマークし、16日の四百メートルと合わせリレー2種目制覇を果たした。

四百メートルリレー

1位、土佐(和田、森本貴、東崎、森本雅) 41秒23

四国高校新、県新、県高校新

昨年と同一メンバーの土佐が県体の県高校記録をさらに更新。

お悔やみ申し上げます

恒石可幸(7回) H 7・11・10

山崎武史(26回) H 11・11

瀬戸伸和(31回) H 12・8・24

北川一郎(10回) H 12・11・11

高橋保彦(37回) H 12・12・19

三宮正彦(18回) H 13・1・14

和泉義輝(22回) H 13・1・31

西山徹(41回) H 13・3・2

川井俊彦(10回) H 13・3・25

森沢一司(22回) 逝去

尾神俊彦(33回) 逝去

植田崇(31回) H 13・5・21

伴正一(17回) H 13・5・26

伴正一氏(ばん・しょういち) 元駐中国公使、弁護士) 26

日午後5時45分、心不全のため高知市内の病院で死去。77

歳、高知市出身。葬儀・告別式は28日正午から午後1時まで、高知市西町46の自宅で神式。喪主は妻久子(ひさこ)さん。

東大法学部を卒業後、昭和27年外務省入りし、パキスタン大使館参事官、経済協力局技術協力課長、青年海外協力隊事務局長などを歴任。

同52年駐中国公使に就任し、同55年帰国と同時に退官。同年の参院選、同58年と平成2

年の衆院選に出馬したが、及ばなかった。日中友好会館理事長として国際交流に尽力したほか、国政や外交について発言を続けた。

(高知新聞5月28日付朝刊)

七十歳で同窓会に入会

24回生関東クラス会

24回生は激動の時代に学窓の時を過ごした。入学は昭和18年、既に太平洋戦争たけなわであった。入学したものの間もなく、陸軍幼年学校、海軍兵学校予科の募集があり、一部の人が受験してクラスを後にした。3年生の夏、空襲で校舎焼失、そして終戦。翌年暮、南海大地震、クラスメイトの一人を失う。軍学校へいった仲間は終戦後大部分復帰したが、宿舍の不足と食糧難のため転校していった者も



校歌を熱唱する声とハーモニカの音と、冬の夜空に吸い込まれる

いる。その代わり、京浜、阪神などで罹災転校してきたものもいる。入学時の定員は70人であったが、出入りを加えると延べ人員は80人を越えるのではないかと思う。

これに加えて、卒業はバラバラであった。昭和22年4年終了で旧制の上級校へ進学、昭和23年5年卒業で旧制へ進学、そして昭和24年新制高校第1回の卒業生として卒業と3回に分かれた。人数もほぼ三分の一づつである。

この出入りの激しさと、罹災による記録の焼失とがクラスメイトの掌握を困難なものとしている。同窓会への入会資格を「一度でも学窓に籍を置いたもの」とするならば、24回は80〜90人の同窓会員がいるはずであるのに、同窓会名簿には6人しかいなかった。この数字は途中転校や退学などを除いたものであろう。

そこへ一 年度の本部名簿から1名追加になって、67人になった。いわば「70歳で同窓会に入会」してきた人がいるわけである。彼の名は能津長和君。彼は



24

家庭の事情で卒業直前に親元の高校に転校したため、土佐高の卒業扱いを受けず、同窓会に入りそこなつたまま50年経ってしまった。彼の兄で22回生の能津恭久君が最近になって気が付き、「おんしはどうして同窓生でないのや」ということになり、同窓会本部に届けて二 年の名簿に初めて記載されたものである。我々24回生もどうして気が付かなかつたのだからと不思議に思う。在学時の混乱が尾を引いているのであろう。彼は「ノーシン」のあだ名でクラ

高知工科大で第1期学位授与式



末松学長、宮地副理事長（21回生）、岡村副学長（33回生）平成13年3月27日高知工科大の第1期学位授与式（卒業式）が行われました。高知工科大第1期卒業生内容：工学部卒業生449名（編入学による18名を含む）内土佐高校出身者12名（物質・環境システム工学科2名、知能機械システム工学科2名、電子・光システム工学科2名、情報システム工学科4名、社会システム工学科2名）

スの人気者であった。「ノーシン」は当時評判の頭痛薬である。早速関東地区在住のクラスメイトに招集を掛け、平成13年1月「24回生関東クラス会」を開催した。集まったのは在

住者12名中7名。新橋の赤提灯で氣勢をあげ、駅前広場で校歌を放唱した。添付したのはその時の集合写真と校歌斉唱の証拠写真、どちらの写真でも中央付近で「こやかに笑っているのが能津君である。」

高校1年生研修旅行 東京を中心にコース別研修

平成13年1月15日から1月21日までの1週間、土佐高校1年生の関東方面への研修旅行が行われました。この研修旅行は従来の修学旅行に代わるものとして今年初めて実施されました。その日程の途中19日に東京都内を中心としたコース別研修が行われました。これは、大学、研究機関企業等を数班に分かれて訪問するものです。我が関東支部の会員諸先輩の紹介によるものが中心になっていきます。研修旅行終了後の高校1年生の感想文の一部をご紹介します。(筆山編集部)

弁護士会館での研修と裁判傍聴

・初めて裁判傍聴をして、今まで自分の中で想像していた裁判の様子、弁護士と検察官裁判官のやりとりとの違いがよくわかって、すごく勉強になりました。マスコミで取り上げられているような事件の裁判の様子を聞いていると、被告人が一方的に悪人のように見えていたけれど、実際の場で事件の真相、被告人の心情を聞くと、すごく考えさせられるものがありました。同じ日本にもこの裁判で見たような被告人がいると思うと、裁判の様子以外にも勉強になったことが多かったように思います。(Oホーム N・K)

三才堂
・辞書の出版という、著者から原稿をもらってきて、校正して製本業者に任せて売り出す……、失礼なことに、私はそんなふうに思っていた。しかし、それが私の勝手な偏見であることが分かった。何万もある語にいていねいに説明をつけていくことの根気強さ、そして何より「出版」するということが、ただ売り出すのではなく、文章の一文一文に責任をもつということ、つまり、「出版すること」イコー

(Oホーム M・K)
・今まで本の保存が目的という図書館があるということを知らなかつたので、蔵書数を聞いてびっくりしました。また、書庫を実際に目撃してもらって、ふつうの図書館や書店にはない珍しい本があり、20歳になつたら、ぜひ来たいと思いました。(Oホーム Y・A)

決定委員会の会合を行って、どうすれば景気がよくなるかなどを話し合っているなどというところがわかり、勉強になりました。(Sホーム K・K)

東京学芸大学
・今回の研修で自分が知りた範囲のことが大体わかったので、満足しています。臨床心理士になるための手順から他の心理学の分野などを詳しく聞いて、ますます「これを目指そう!」という気持ちが強くなりました。(Tホーム Y・S)



国会と国会図書館

・議事堂はテレビなどで見るのとはまた違い、実物は美術館のようで、全てを探索したい思いにかられた。議場ももちろんその他の細部にわたるまで、歴史を感じ、ここで日本が動かされているのかと思うと、不思議な感じがした。

日本銀行

・とてもすごい建物だったし、中に入ってみたらもっと驚いた。すごく高級感があった。日本銀行は50兆円ぐらいのお金をもち、月に2回金融政策



鹿島技術研究所
・免震システム、無響室、太

陽電池など、現在の建築技術の水準の高さを知り、驚いた。それに都市環境の整備についても、とても熱心に研究しているのに対し、驚きを感じた。できれば、あのような研究所に就職したいと思う。(Nホーム E・O)



早稲田大学

・よく知られている大学で、設備もスケールもすごかった。学生も個性的な人がたくさんいた。楽しい雰囲気があった。興味が湧いてきた。図書館も便利で、大学のいい所をたくさん見つけられてよかった。(Oホーム S・K)

警視庁

・まず、漠然とすごいと思っ
た。1日に5千件も一番
通報があることも、通信指令
センターの設備も、今そこで
大きな事件かも知れない通報
があることも全部驚いたし、
「ヘー」という言葉しか出
なかった。3日に1回の夜の
勤務はすごい大変な仕事だ
と思っし、同時にすごい大事
な仕事だと思っし。そういう
風に働いてくれている人たち
に感謝したいと思っし。

(Tホーム T・I)

高エネルギー加速器 研究機構

・講義を聴いて、実験や見学
をするというまさに「勉強す
る」といふ感じの場所だっし。
「高周波加速空洞実験」は、
まだ高校1年の僕には難し
く分らないこともたくさん
あつたが、研究所の皆さんが
熱心に教えて下さつた。ピッ
グバンなどのまだ説明されて
いない謎など説明するために
毎日仕事をしている研究所の
皆さんはすごいと思っし。

(Tホーム M・K)

新日本製鉄 君津製鉄所

・間近で、鉄を連続熱間圧延
しているところを見て、とて

もよかつた。自分の前を二二
度くらいもある鉄が通過
したときは、とても熱かつた。
24センチメートルの厚さのあ
る鉄が2ミリメートルの厚さ
で一 mくらいもある鉄
になつたときは驚いた。ダイ
ナミックな作業だが、五
種類もつくり分けられるとい
う緻密さにも驚いた。

(Nホーム Y・K)



萬有製薬

つくば研究所

・新しい薬を作るのに10〜18
年 お金が一五〜二億
円かかるというのには驚かさ
れた。また一つの薬を作るの
には、気の遠くなるような作
業があるということを知つて
薬のありがたみを再確認した。
また、萬有製薬の「患者さん

のために」「独創性」とい
うの、自分たちの私腹を肥やすため
でなく、患者さんや、病気の
せいで夢を実現できずに亡く
なつた人達のために新しい薬
を作つてつとる姿勢に感動し
た。(Nホーム Y・T)



理化学研究所 筑波研究所

・研究室に入る際に白衣の着
用が義務付けられていました。
それはやはり、遺伝子の組換
えという実験に伴う危険さを
表わしていると思ひます。細

胞というものすごく小さいも
のを相手にあれだけの研究を
するのは、相当な知識と技術
が必要だと改めて感じました。
日本の最先端の研究を見るこ
とができて本当に感動しまし
た。(Hホーム N・I)



国境なき医師団

・今日、国境なき医師団の活
動のビデオを見るまで、私は
医療の発達していない地域で
どつという工夫をして、どんな
器具を使つて病気を治すのだ
ろつということしか考えてい
ませんでした。でも、ビデオ
の中の看護婦さんが「いろん

なものをつつていく患者さん
に私たちは愛をあげるんです」
と言つたのを聞いて、患者さ
んに必要なものは医療器具だ
けじゃなく、もっと大切なも
のがあるということを学びま
した。(Nホーム A・K)

東京大学

・赤門というのを初めて見た。
ものすごい感動した。成績が
悪いのはわかつてはいるけど、
絶対につかつてやると思つた。
博物館はすごい不気味な雰囲気
で、どれも今にも動きだし
そつで、こわかつた。そして、
なんといつても食堂、おいし
かつたし、土佐に比べて、大
きいし、あつたかいし、便利
だつた。しかし、東大理1に
うがるには勉強しなければな
らない。勉強しよう。

(Hホーム E・Y)





ギニア共和国の山村で活動打ち合わせ中の筆者

筆者は10年前の平成3年に、それまで東南アジアで熱帯農業、林業に携わっていた企業を離れ、西アフリカで農村開発活動を行うNGO（非政府組織）を設立、そこに住む人達の「貧困の解消」活動に関わるようになったが、その機は少年時代を過ごした高知の自然に起因しているように思えてならない。

現在の土佐清水市、当時は清水町立尋常小学校を昭和19年に卒業したが、在校中の思い出といえは、太平洋戦争のため食糧不足でひもじい状態が続き、勉強より食べる事が最大の関心事であったことである。昼食の弁当は、母が蒸したサツマイモが2個、午前10時頃には腹の中に収まっていた。夕食まで空腹のままでは過ごせないのが放課後、友人達と海岸で「穴タコ」採りに精をだした。小さなバケツに木灰を入れ、この灰を波打ち際の岩の穴につまんで投入すると、潜んでいた小さなタコが顔ならぬ頭を出し、面白いように掴み採りができた。これらを焚き火で軽く焼き空腹を満たしていた。自然の豊かな高知での食糧不足は、戦争のため食料が戦地に送られていたためと子供心に感じて取っていた。

現在、縁あって日本人に馴染みの薄い西アフリカの農村に住む人達の「貧困の解消」活動を行って今年で



乾季は植林地に毎週2回村民総出で谷川から水を汲み苗木1本1本に灌水する



日本の伝統有機肥料「ボカシ肥」の生産指導

10年が経過した。活動地であるサハラ砂漠の南に位置する

大きな雨季の期間が5〜6ヶ月と短く、その収穫量は降雨量に左右され減少傾向にある。降雨量の減少は、欧米向けの輸出を含めた木材の需要増により、森林の伐採、消失に起因するところが極めて大きい。

僅か5〜6ヶ月間の雨季の農作業による食糧確保は、1年間生活するに必要な絶対条件となつている。雨季に対する乾季は、農地が荒漠たる茶色の世界と化し、半年間食糧確保は不可能だからである。

1日1食、2食を余儀なく

さされているこれらの地域に住む人達は、言わば人間生存の極限地帯に住んでいると言つても過言ではない。

毎年この地を訪れる度に思うことは、過去に空腹生活を唯一体験した戦中、戦後の食糧難の高知での生活との比較である。程度の差こそあれ食糧不足は、当時の高知と現在の西アフリカに各々住む人達にとつても、生活上の最大の不安要因である。しかも双方に共通していることは、共に同じ人間がこのような原因となる環境を自ら創り出したことである。西アフリカは森林の伐採、消失であり、日本は自ら仕掛けた戦争である。

他方、世界人口は増え続け、二三年には一億人に



森林再生植林のための苗圃。カシュナツの苗木

今こんなことになっています

21



電話 取ると若い男の声で、「リュウセン(?)さまですか?」そつだとそのまま返事をすると、「ご主人さまは高麗川ゴルフのメンバーでいらっしやいますネ」あ、これはゴルフ会員権を売らないかの勧誘のはなしだなと思い、当分処分する気のない旨を先回りして答えた。するとそれを遮るように、「イエ、ゴルフの会員権のことではありません。私どもは金の売買を扱っておりまして・・・」なんだ、金の売買か。金にも関心がないとかさねて断った。同時に、変だなとふと思った。何故ゴルフの会員権が金の売買につながるのだらう。そこで訊ねてみた。「実はゴルフの会員権をお持ちの方はみなさま裕福でいらっしやいますし、それなら金の売買につきましても・・・」私は電話口で思わず笑ってしまった。金持ちど

ある日の勧誘電話

ころか、長年団地にすみついでいて、金の運用など考えたこともないヨ、と幾分口調を和らげて諭すように説明した。相手は恐縮した風に、「どうも失礼致しました。万一場合は是非とも・・・」と念を押して電話を切った。そうか、ゴルフの会員なら金の売買の話もきつと商売になる、という持って回った発想は、これは懸命に頭を捻った、世馴れない若者の智慧だろうが、なるほどと納得した。

数日後、差出人の心当りのない手紙が届いた。ハテと封を切ると、先日の電話の主からの思いがけない手紙だった。短い文面をそのまま引用する。「本日は御多忙の折、誠に有難うございます。わずかに数分の電話での会話でしたが、大変嬉しかったです。元より口下手で、お聞き苦しい点あったとは存じますが、これからも勉強してよくしていきたいと思っております。寒くなりませんが、御身体お気をつけになって下さい。敬具」先日の

泣き虫
怒り虫

電話のとき、うけた若者の実直そうな印象から好感を抱き、その折り私の話したことが自然に相手に通じたものだろうが、彼は電話のあと、早速アフターケアで書いてよこしたものに違いない。この手紙にしても幼い字体だったし、文面も決して書き馴れたものではないが、一字一字丁寧に書いてあり、封筒や便箋も、社名のない私用のものだった。その若者は、入社して何年位だろうか。リストラの波の中を必死に自分の仕事を守ろうとしているのだらう。そんな覚悟も文面から見えた。私は甘いのかもしれないが、見知らぬ若者からのこの短い手紙に、私はいつとき爽やかな気持ちも味わった。もう一昨年にもなる。11月終り近いある日のできことだった。



サバの小学校(サナワリア村)

達する。この増加分の90パーセントは発展途上国で占めることが予測されているが、問題は今後如何にしてこれらの国々で食料を確保するかである。筆者が30余の発展途上国を回った限りでは、根幹を担う農業の前途に明るい兆しは些かも感じ取れない。その最大の阻害要因の一つは、焼き畑農地の「土壌劣化」である。日本のように「農業とは土作り」の考えがなく、焼き畑栽培は栽培後10年近くの休閑期間を置けば、地力は自然に回復するためこの慣習が定着している。ところが人口増で食料の需要が伸び、この休閑期間を短縮せざるを得ない状況に追い込まれるに従い、農作物の収穫量は減少の一途を辿る。

現在、私共のNGO「サバ」西アフリカの人達を支援する会」は、西アフリカの農村で上記の貧困の解消策として、森林の再生植林と劣化した農地の「土作り」を主要活動テーマとし、現在ギニア共和国の山村で住民達と共に活動を実施している。住民達は、かつて繁茂していた豊かな森林が彼等に「衣・食・住」をもたらしていた恩恵を覚えており、サバの森林の再生植林の呼びかけに活動の主役として精力的に心えている。更に、サバは日本の伝統有機肥料「堆肥とボカシ肥」の生産技術指導を行い、安価なこれらの有機肥料で劣化した焼き畑土壌の活性化にも取り組んでいる。

同期の友人達との会合では、戦中、戦後の食糧難の話が多いが、遠い過去の事例は時代と共に風化しつつある。しかし、同じ地球上で繰り返して発生している貧困を見過ごすことは、いつの日か私達にも再び降りかかる可能性を否定することにつながる。西アフリカから発信されているものは何か、私達が今問われている。

メールボックス

百周年に向けて

佐竹真一（41回生）



昨年、母校は目出度く80年のお祝いをすることが出来た。人間で言えば、傘寿を迎えた訳で、多くの孫や曾孫に囲まれる幸せを味わうことだろう。多くの卒業生が様々な分野で活躍する姿や在校生連の日常の姿を、傘寿の母校はどんな気持ちで見守っているのだろうか？

母校には、礼節を重んじ、個性を尊重し、自由闊達を旨とする校風があり、多様で優れた人材を多く輩出する風土となってきた。卒業生名簿には、実に多様な活動分野を見出すことが出来る。僅かに国家公務員上級試験を経た分野が少なくないかな、と思わせる程度である。これは、開校記念碑文に謳われた理想が、この80年間、嘗々と受け継がれ、多くの卒業生の人生に結実し

たことを意味している。

建物には、どの様な人が其処に住み、其処でどの様な営みをするかによってその値打ちが決まるという。41回生の私が在学中は、「チリ一つないボロ校舎」を誇りとする時代だった。戦災によって灰燼に帰した校舎を、戦後間も無く父兄、教職員、生徒が一丸となって再建した校舎に学んだこともある。再建のなった秋の運動会で、校庭に残された建築資材（ナル）を活用して応援席を作り、花を添えたのが「名物」櫓の始まりであることとを、中1の運動会でそこに座って学んだ。

喩え、毎日通う校舎に時計台はなく、夏に赤い風が降ってくる教室があり、夏冬逆転の冷暖房が完備する「ボロ校舎」であっても、此処には素晴らしい人々の営みがあることが判ってきた。開校記念碑文に盛られたこの学校の理想に、人材の輩出ということがはっきりと謳われていることも知った。川崎・宇田の両氏の理想によって創建され、報恩感謝は、先ずはこの両氏に

向けられるべきものであることも知り、この理想に共鳴して精励されて来た先生方や父兄が多くいることも知っていた。

「人材」とはなんだろう、と考え始めたのも中学の頃だった。「進学校」と受験校の違いについて、先生方と激しく議論したこともあった。高校になって、理系・文系とクラス分けをすることについて、自分達の学年を分断する気が、と捻じ込んだこともある。受験準備の障害となるからとして、「名物」櫓作りの活動を制限しようとする先生方の動きを察知していた先輩達とともに、1年掛かりで、生徒会を中心にストライキ態勢に転換出来るような「櫓委員会」を組織したこともあった。運動会を前にして、30名近い櫓委員全員が、校長室へ、主立った先生方と対峙したが、卒業生でもある曾我部校長先生の裁断で決着した。

こんな生意気な生徒達とのやり取りを許容出来るような懐の深さや見識の高さが先生方にあったのは、今から思えば、とても幸運なことだった。ダイヤモンドを磨くには金剛砂しかないように、人材を磨

き上げるのには人物しかないと言う。母校で出会えた先生方の中には、多くの個性的な「人物」がいた。これは、どの卒業生達にも共有されている経験であり、その後の人生の貴重な財産ともなっている。

生徒達の間の切磋琢磨も重要だった。成績が良いばかり、遊びに長けているだけ、部活動に成果を上げるのみ、それだけでは一人前と認められない風潮があり、個性のぶつかり合いが起こっていた。お互いを労わり合う心も育まれた。困難ではあったが、勉強と遊びの切り替えが出来なければ、仲間と楽しい時間が過こせない雰囲気があった。文武両道が毎日の生活の中にあっただ。

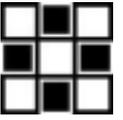
一生涯の友人達が、こつした交流の中で生まれ、育まれていった。

最後の海軍大将の一人、井上成美が、海軍兵学校の校長であった時、軍事学に傾斜する時代の大きな圧力に逆らって、普通学に力を入れ、英語教育を続けたことや、海軍は出世主義ではないとして、講堂に掲げられた大将の肖像を悉く取り去らせたことは、日本の教育のあり方に大きな教訓を残している。

母校に於いても、受験技術に傾斜する圧力に抗して、独創に繋がる粘り強い思考力を養い、異文化を乗り越える自己表現能力を培い、多様な才能を育んで、多くの先輩達を乗り越える人材を輩出してゆく方策を、改めて見直す好機にあるのではないだろうか？

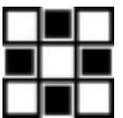
多様な人材は、時代の激動期には殊に必要なのであり、長期的な視野で社会建設を行う上でも欠くことが出来ない。21世紀の初頭に立つ日本は、国際社会に重きをなす存在でありながら、激動を伴う社会変革の途上にあり、また、国家百年の大計を樹立する必要に迫られている。

母校に80周年を機として、来る百周年を描き出そうとする動きがある。ある時点の教育は20年を経てその成果を問われ始めると言いが、来る20年間に、新たに7千名を超える名前が卒業生名簿に加わる。この中に、多様で優れた人材をどれだけ多く織り込み、未来の要請に出来るか、と言う挑戦に取り組もうとしている。これに出来る方策の策定に、関係者が挙げて関心と協力を寄せ、輝かしい百周年に結実させてゆきたいものである。



筆三十一号記念

歴代編集長思いのびを語る



昭和60年に創刊号が発行されて以来延々16年、編集委員各氏の努力と同窓会員諸氏の協力のもとに土佐中高同窓会関東支部機関紙「筆山」は発行を続けて参りました。今号で30号の節目を迎えるに当り、歴代編集長の一言を取材して参りました。惜しくも平成12年3月に逝去されました戸田二代編集長には、岩村特派員が天国まで出張してお話を聞いて参りました。



初代編集長小松毅津子(35回)

茫茫

土佐中・高等学校同窓会関東支部の活動を活性化させる核にしようと、機関紙「筆山」が創刊されたのが一九八五年。私は創刊号から8号までの4年間、編集長をさせていただいた。

思つたところあつて、数年前、定年より数年早く退職し、霞を食べて暮らしているせいか(でも、なぜか太る)、記憶

は茫茫。当時は仕事のほうも超多忙で、やたら風邪ばかり引いていたように思う。飯田橋の「白ゆり」というレトロな喫茶店に集まり、浅井伴泰・窪田秀忠・岩村康生・吉井雄一さんに私で、よく編集会議をした。「社会福祉法人牧ノ原やまばと学園」の理事長の重責にある長沢道子さんのご紹介や、竹邑類さんの華やかなミニシカルショウと講演などを思い出す。



二代編集長 戸田博之(38回)
遊び 塾津子

たまるか、はや30号になつたかよ。僕が編集長やつたのは9号(一九八九)から14号(一九九二)までで、計算上は全体の5分の1と短い。けど、まっこと楽しかった。ほんとほもつとやりたかつたんやけど……。

最初の編集委員会で岩谷清水先輩と久々にお目にかかれ

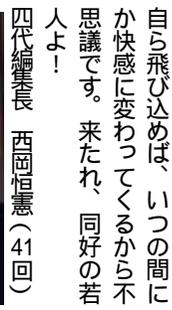
た。まさかその3年後にお亡くなりなるうとは。いま岩谷さんと天国でもるもる土佐弁で話しゆつぞね。カラオケもやりゆう。あの頃は甲子園の応援やら、母校出身の代議士が5人になった祝賀会やら結構晴れやかなニュースが紙面を飾つたねえ。そついやあ幹事会で食中毒事件なんてのもあつた。サルモネラ菌じゃ。



「猿も寝らあ」には笑つたよ。これから楽しい「筆山」を発行し続けてよ。そのうち天国からインターネットで記事を送ろつかねえ。まてまて、開通したらまず第一に妻にメールせにやあ。「宏子ありがと」と。

前編集長戸田氏(38回生・故人)のブラジル行きで思いがけなく迷い込んで来た編集長の椅子であつた。ハチキン副幹事長、宍名主、鬼事務局長等、委員が名づつての口煩い

先輩達、やっと引き込んだ後輩は、自ら「酒呑童女」と豪語する元美少女では、編集から会計、雑務まで仕事が増えただけ。「後は頼んだぜよ」と言えず、出来るのは引き延ばし。何回か発行を遅延させ、とうとう更迭され、同窓会の皆様にも多大な迷惑をおかけしました。深く反省しております。



後任の西岡氏はパソコン、スキャナー、レーザー印刷、Eメール、HPをひっさげて登場し、紙面を刷新し、編集のスピード化を果たされました。IT革命は怖るべし。向陽新聞部で叩き込まれた職人芸はもはや無用の長物。老兵は消え去るのみ。同窓会は怖るべし。しかし、その怖さも自ら飛び込めば、いつの間にか快感に変わってくるから不思議です。来たれ、同好の若人よ!

四代編集長 西岡恒憲(41回)ペンネーム役所工事こと前

編集長藤宗氏の副業(本業は筆山編集長)の設計事務所が、この長い不況期にも関わらずどついつうわけが繁盛しまくつて、本業を廃して副業に専念するといふことになつて、鬼事務局長の命令一下編集長の重職のおはちがまわつてきた。

残された編集委員は、ハチキン副幹事長、宍名主、鬼事務局長、役所工事、元美少女酒呑童女、元も今も美少女Y、バリバリの現役美少女Tさん等であつた。嗚呼何をか曰んや、我が人生はこれを転機に、30年続けた月給取り生活が副業になり、締切りが迫ると会社休んで編集作業をやる始末。ああ、この快感よ……。

ここ数年の急激な社会のIT化のおかげで編集作業が単純化されスピードアップできたのがせめてもの慰め。原稿集めは全てEメール、版下作成作業は完成形になるまでコンピュータの中でやり、最後の校正作業ではPDFファイルが各編集委員のコンピュータ間を飛びまわるという状況です。今後とも同窓会の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

出版し

大原健士郎 (24 回生) 「とらわれる生き方あるがままの生き方」 講談社 六八 円
 竹内靖雄 「『日本』の終わり」 『日本型社会主義』との決別』 日本経済新聞社 七四三 円
 中城正亮 (30 回生) 「さらば学校の世紀」 『世界・子ども』の風景』 成甲書房 一四 円
 田島征三 (34 回生) 「ひとのいいこと」 小学館 一四 円
 大橋一章 (36 回生) 「薬師寺千三百年の精華」 里文出版 二五 円
 野田正彰 (37 回生) 「国家に病む人びと」 『ト、ガリシアほか』 精神病理学者が見た北朝鮮』 中央公論新社 一六五 円
 黒鉄ヒロシ (41 回生) 「坂本竜馬」 P H P 研究所 八三八 円
 坂東真砂子 (51 回生) 「イタリヤ・奇蹟と神秘の旅」 角川書店 一一 円
 廣瀬裕子 (60 回生) 「衛星ヒジネス・ウォーズ」 (ゲリリー・ドルシー著) 日経 B P 社 二五 円
 高遠裕子 (60 回生) 「人生を変える 成功へのパワフル」 (リチャード コッチ著) 高遠裕子訳) TBSブリタニカ 二 円

以下は雑誌に掲載された著作です。
 2002、2003 年のものを抜き出しました。

大原健士郎 (24 回生) 「現代日本の社会と自殺 (特集 増えていく自殺)」 『インタビュ』 自殺は防止できる』 教育と医学 48(5) p392-399 2000
 カウンセラーの資質』 MEDICAL ESSAYS 執海(思想) 11, 日本医事新報: 3985 p66-68 2000
 公文俊平 (28 回生) 「講演懇談要旨 情報革命と企業」 『経済人』: 54(10) p39-41 2000
 『「知業」を具体化するインターネット』 (総力特集) 『21 世紀型資本主義が見えた』』 『エコノミスト』: 78(19) p69-71 2000
 『IT の出現は 100 年周期の第三次産業革命』 『エコノミスト』: 78(55) p94 2000
 『21 世紀情報社会のバースペクトイブ』 『運輸と経済』: 60(1) p29-36 2000
 『座談会 2000 年問題の教訓は何か?』 『予防時報』: 202 p34-44 2000
 倉橋由美子 (29 回生) 「私の好きな」 『ジョン・コルトレーン(Gaily Favorite)』: 32(8) p2-5 1998
 『小説を楽しむための小説毒本』 『恋愛小説』: 5 週刊朝日: 103(12) p174-181 1998
 島内英祐 (30 回生) 「世界の道あ・ら・かると スリランカの道」

中城正亮 (30 回生) 「いざなぎの流にみるアジアの神がみ (いざなぎの流の世界)」 『季刊民族学』: 24(1) p93-97 2000
 島田裕之 (33 回生) 「施設利用高齢者のパラノス機能と転倒との関係」 『総合リハビリテーション』: 28(10) p961-966 2000
 川島章弘 (33 回生) 「ルドルフ・シュタイナーの黒板絵のマルクメソディア性」 『上越教育大学研究紀要』: 19(2) p525-536 2000
 田島征三 (34 回生) 「G3 処分場問題と闘うアティエリストの記憶 木の實たちが語る日の出の木の遺言」 『婦人公論』: 85(12) p80-83 2000
 「ルポタージュ 日の出の森からたより (特集 運動 その記録とその芸術性)」 『新日本文学』: 55(7) p42-56 2000
 合田佐和子 (34 回生) 「対談 宙(そら)から落ちてきた天使」 『太陽』: 37(8) p42-46 1999
 大橋一章 (36 回生) 「新疆の仏跡 (特集 シルクロード・シリーズ (3) 仏教伝来の道)」 『文化遺産』: 10 p48-53 2000
 「新資料紹介 新発見の石造彫形水盤について」 『新教育』: 250 p122-132 図表 99 2000
 野田正彰 (37 回生) 「医療過誤 疑問を口に出せぬ権威的組織療」 『自覚なき病院 (追究 雪印事件は氷山の一角 日本の安全)』 『週刊タイムズ』: 88(34) p42-43 2000
 「台湾大地震被災地を歩く (特集 震災 5 年 命を失った体制はつくられたか)」 『世界』: 67 p36-46 2000
 「大ロシア主義の落とし子」 『ブーチン大統領』 『忍心』: 10 p12-13 2000
 『Sapiro』: 12(4) p86-88 2000
 『若者が接触するメディアの変化 (特集 1 若者のメディアライフスタイル 100 代 200 代はメディアにどう接しているのか)』 『宣言』: 607 p22-25 2000
 『規範なき』 『時代と子ども』 『心』 『真に問題にすきは、若い人たちが抱えている空虚感だ』 (特集 規範なき』 『時代の子どもの心』 『教育』: 55(4) p14-17 2000
 『総合教育技術』: 55(4) p14-17 2000
 『愚問を生む深刻な社会の病理 14 人が答える』 『なぞ人を殺してはいけないのか』 『子供に聞かれたら』 『子供の愚問』 『では済まない時代』 『親は JUDITH』: 78(4) p75-177 2000
 『幸せな精神分析学者』 『フロイト』 (特集 『20 世紀の巨人』 『は死んだか』 『新潮』: 45 p19(12) p76-82 2000
 『対論』 『ゴボレット』 『バイオレンス』 『一人一人の社員』 『社内鬱人間』 『注意せよ』 『FOCUS』 『戦後日本人のこころ』 『老人ケアの本質』 『作業療法ジャーナル』: 34(9) p893-899 2000
 柿田睦夫 (38 回生) 「科学の散歩道 オカルトと「信じる」世代」

塩田潮 (40 回生) 「混沌・政局解剖 首相が嘔しめるべき」 『格闘』: 81(11) p38-39 2000
 「日本人再発見 (2) 池田成彬 (第一回) 戦前の財界で最大の力を発揮し軍官支配体制のスタートを担った」 『エルネオス』: 6(1) p70-73 2000
 「日本人再発見 (2.4) 池田成彬編 (3) 福沢諭吉』 『とくく違った世界観』 『社会観 人生観を離反』 『エルネオス』: 6(3) p88-91 2000
 「混沌・政局解剖 新年政局動が 2 人のキーパーソン』 『エルネオス』: 6(2) p82-85 2000
 「シリーズ日本人再発見 (2.3) 池田成彬 (2)」 『エルネオス』: 6(2) p82-85 2000
 「日本人再発見 (2.5) 池田成彬 (4) 戦時経済体制にも安易に妥協せず自由主義者として志を貫く通人』 『エルネオス』: 6(4) p88-91 2000
 『特別研究 崖う縁に立たされた落日政治家 小沢一郎』 『奇跡の復活』 『初心貫徹』 『決断決戦の心』 『ニューリーダー』: 13(2) p59-64 2000
 「永田町対談 (2) 新しい政治を創るため自民党は総点検を」 『財界』: 32(11) p18-23 2000
 「塩田潮の永田町対談 (3) 岡田克也 (民主党政務調査会長) 強い経済と社会的公正の両立が民主主義の根幹だ』 『財界』: 32(12) p14-19 2000
 「永田町対談 (4) 参院選に勝ち安定した政権作る』 『青木幹雄 (参議院自民党幹事長)』 『財界』: 33(1) p24-29 2001 [23-1016]
 黒鉄ヒロシ (41 回生) 「いすれ辞書に載る (テーマ・エッセイ) 長嶋茂雄監督論』 『Voice』: 275 p38-40 2000
 森崎初男 (41 回生) 「経済学・経済政策 (コンサルタントコース・管理と診断のポイント講座 (特別編) 中小企業診断士 新試験制度ガイダンス 新試験科目の内容と学習法 (ポイント解説)』 『宮岡等』 (49 回生) 『要介護認定の一次判定と主治医意見書の問題点 (特集 精神科医のための介護保険)』 『老年精神医学雑誌』: 11(9) p1000-1004 2000
 『日常臨床でみられる精神症状の見方』 『日本精神医学雑誌』: 50(4) p613-653 2000
 『研究と報告』 『うつ病患者における持続・維持療法について』 『精神医学』: 42(9) p939-944 2000
 阿部知曉 (51 回生) 「イギリスのハウレット野生動物園におけるトリヲ飼育環境』 『霊長類研究』: 15(2) p305-311 1998
 『野生コリラの保全計画と活動団体』 『霊長類研究』: 15(2) p193-198 1998
 坂東真砂子 (51 回生) 「私の好きな」 『性』 『一発の弾丸が村を殺した』 『わたしのお茶時間 (9) 土地を飲む』 『私』: 54(10) p12-15 2000
 『私の好きな』 『性』 『性』: 34(6) p2-5 2000

道路建設: 614 p3-10 1999
 前衛: 691 p158-160 1997